

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090700212		
法人名	特定非営利活動法人 リアルリンク京都		
事業所名	走和の郷 (2階ひまわり)		
所在地	京都右京区梅津石灘町48番地		
自己評価作成日	平成28年3月13日	評価結果市町村受理日	平成28年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2690700212-008&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	平成28年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者・職員が笑顔で毎日を過ごし、一緒に笑い合える・心とむ雰囲気作りを大切にしています。一人ひとりとゆっくり話す時間を作り、思いの把握に努めています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>(3階 こすもす)と同じ</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼後に、ホームの理念である「3つのお約束」を声に出して確認、意識づけができています。また、フロア内の目が行きやすい場所にも、理念を提示しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のマンションの会合にホームの会議室を使用している。また、今年は秋祭りを開催し、多くの地域の方々に喜んで参加して頂いた。12月より地域の方が来られ、地域介護予防推進センターの体操教室も開催し、希望者参加されている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一回の間隔で開催している運営推進会議にて、地域の民生委員の方や家族様と意見交換を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議録にて、提議されたことや意見については、毎月のリーダー会議やユニット会議、委員会にて話し合いを行い、改善にむけて取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議録を作成・提出し、報告をしている。またわからない事などは直接連絡し、確認している		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講師を施設に招いて行っている内部研修や外部研修、また伝達研修を開催し、具体的な禁止行為の正しい理解の取り組みを行っている。 また、身体拘束委員会を設置している。		

京都府 グループホーム 走和の郷 (2階 ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講師を施設に招いて行っている内部研修や外部研修、また伝達研修を開催し、虐待の防止や早期発見への取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講師を施設に招いて行っている内部研修や外部研修、また伝達研修を開催し、権利擁護に関する制度の理解の場ができています。また、後見制度を利用されている利用者様に関しては、本人様や後見人様と話し合える機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前より、十分な時間をかけて説明を行っている。契約締結時にも丁寧に説明を行い、家族様からの不安や疑問点にも納得して頂けるように行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お便りとして、日々の利用者様の様子や写真を家族様に送付させて頂いている。意見や要望については、日々の面会時やサービス計画書作成時に尋ね、反映に取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や委員会からの意見や要望で運営に関する職員の意見や提案を反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与の優劣をつけることや、リフレッシュ休暇として有休消化に取り組んでいる。また、研修を通じて、やりがいや楽しみの再発見に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルにあった研修を企画している。また実践者研修やキャリアアップ研修への参加も実施している。		

京都府 グループホーム 走和の郷 (2階 ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	右京事業所連絡会への参加や、外部研修に参加する事で、同業者との交流を図っており、また、向上できるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面談時には、フロアの計画作成者も同行し、自宅での生活状況や顔なじみの関係を築けるように努めている。入居当日も計画作成者が出勤し、安心して生活できるように努めている。日々の会話時やプラン立案時に、本人様の要望に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階からフロアの計画作成者が同行し、顔なじみの関係を築くよう努めている。また、入居当日も計画作成者が出勤し、安心して入居して頂けるようにしている。ご家族の要望に沿ったケアプランの立案に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントシートの活用や本人様や家族様の真意を確認できるように努めている。また担当ケアマネ、病棟担当者、主治医などから情報や意見を頂き、必要なサービスの見極めに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や月に4回程の食事レクリエーション時に、その利用者様ができることを見極め、職員と一緒にを行うようにしている。また、利用者様同士の関係構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告を行い、毎月写真付きの便りを送付している。家族様の意向を確認し、一緒にケアの方向を考え決めるようにしている。家族様としての役割を担って頂けないか確認し、外出の支援等ケアプランに反映させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の馴染みの場所への外出を取り入れたり、家族様以外の方でも繋がりの方の面会を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	各入居者の生活歴や性格、意向を確認し、 他入居者との相性を考慮しながら、関わり が持てるように座席を考えたり、一緒に家 事やレクリエーションを行うようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時にも、お困りのことがあれば連 絡を頂けるように伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ケアプラン見直しの度に必ず本人様の意向を確 認している。また、本人様の習慣や希望が共有で きるよう24Hシートを作成し、職員間で共通理解 できるように努めている。アセスメントシートにて、 利用者様の思いや希望を把握できるようにしてい る。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居時に基本情報シートを作成し、生活歴 や習慣、生活環境、好みを把握できるよ うに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	入居前の生活習慣・生活リズムの把握と共に、入 居後1週間程で24Hシートを作成している。1日の 過ごし方、意向・好み、出来る事、サポートの必要 な事、心身状態等注意の必要な事が把握でき るように努めている。また、毎月のモニタリングを 実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議への参加を呼びかけ ている。参加ができない場合でも、要望を確 認し意向が反映されるように努めている。ま た、主治医の意見も確認している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアの実施内容や状態、気付 き、ケアの工夫を記入し、職員は情報共有 のため、出勤時に記録の確認を行っている。 また、申し送りノートを作成し、情報の漏 れが無いように努めている。		

京都府 グループホーム 走和の郷（2階 ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアによる体操教室や楽器演奏に来て頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや薬局にて買い物や、行事を通じて近隣のこどもとのふれあいをすることができた。近隣保育園のバザーにも参加して頂くことができた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族様・本人様の希望を確認している。特に希望されない方は、京都武田病院の訪問診療を依頼している。月2回の訪問診療と必要時スムーズに受診できるよう、関係性が築けている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模の看護師に利用者様の異変の兆候など意見を頂く、または適宜報告している。専門的知見やを得られる関係作りに努めている。必要時には、受診できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中にも定期的に本人様の状態確認を行うため、病院関係者・家族様との連携を密にとる様にしている。また直接病院へ行き、本人様の状態を確認する事も行っている。また、訪問診療時や受診時にも関係構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に係る指針を作成し、契約時に書面にて説明・同意をいただいている。また、研修等行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や委員会にて訓練を実施している。また対応に苦慮がみられる場合は、ユニットの責任者や管理者に指示を仰ぎ対応を行う。		

京都府 グループホーム 走和の郷 (2階 ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の避難訓練は、消防署立ち合いのもと利用者様と年2回行っている。地震訓練では、頭を守る、机の下に隠れる等行っている。水害時は、屋上に避難するようにしている。委員会にて、防災マニュアルを作成している。3月に防災訓練を予定している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、対応方法については接遇に関する研修を行ったり、ユニット会議や適宜話し合いの場を持ち、定期的に見直す機会を作っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に選択して頂けるように、その方にあった工夫や言葉かけをするようにしている。また、担当の職員が思いや希望を定期的に確認できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様の意思を確認や生活歴を基にしながらケアを行うようにしている。またより良い方法を一緒に考えたり、提案しながら決めるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされたり、パーマをかけられたり、好きな装飾品を着けておられる方が多く、その人らしい身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事準備や片付けは一緒に行い、役割ややりがいに繋がるよう支援している。また、食事作りや普段と違う食事のメニューを楽しんで頂けるよう、好みやリクエストに応じた料理レクリエーションを取り入れている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合わせた食事形態や食事量を提供し、食事摂取量・水分量をチェックしている。また、出来る限りご自分の力で摂取して頂けるよう、食事形態や使用道具を工夫している。		

京都府 グループホーム 走和の郷（2階 ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に口腔ケアを行うようにしている。その方の習慣も考慮しつつ無理強いはしないが、口腔ケアの意味を職員が意識しながら、出来る範囲ですすめるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、出来る限りトイレで排泄し、不快感の軽減と清潔の確保に努めている。夜間は安眠に繋がるよう、一人ひとりに合わせた排泄用具、パット交換の時間などを検討し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談しながら、下剤の調整だけでなく、水分量や運動量、必要に応じて乳製品等の摂取等もすすめ、適切な排便コントロールができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務体制により、すべての要望に对应されているわけではないが、出来る限り本人様の希望を確認しながら入浴が楽しみとなるよう、入浴剤の使用や湯の温度を変えながら支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも必要に応じて休んで頂く時間を設けたり、前夜の睡眠状況に応じた対応を行っている。夜間も安心して眠れるよう、室温調整や乾燥対策、本人様の好みを把握し、居室環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬効表をいつでも確認できるよう、ファイルを作成し、意識的に見るようにしている。また、薬に変更があった場合は、状態の変化を記録に残すよう努めている。主治医への報告も怠らないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、その方の得意な事・やりがいに繋がる事を見つけ、日々の暮らしに取り入れるようにしている。また、喫煙・飲酒等希望される方に関しては、なるべく希望に添えるよう努めている。		

京都府 グループホーム 走和の郷 (2階 ひまわり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等は、日々の暮らしの中で出来る限り意向に沿って支援している。その他動物園や初詣、馴染みの場所に外出できるように支援に努めている。外出に関しては、事前に計画し家族様の参加も確認しながら行うようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持能力のある方、希望される方に関してはお小遣い程度のお金を自分で管理して頂いている。基本お金はお預かりしているが、買い物同行時支払い能力のある方には支払いをお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられ自由に電話されたり、電話を希望された方はフロアの電話からいつでも掛けられるようにしている。手紙等郵便物の関しても近くのコンビニまで同行し、切手購入・投函までして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓や安全に移動できる空間確保に常に心掛けている。また、温度調整や光・音の調整にも注意を払っている。壁画には季節感を取り入れるため、毎月その月にあったものを利用者様と一緒に制作している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内にセミパブリックスペースを設けて、思い思いに過ごして頂けるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来る限り馴染みのある家具や寝具類、写真等の飾れる物の持参をお願いしている。入居後に作られた作品や写真等も飾り、居心地のいい居場所となるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわかりやすい工夫をしたり、キッチン内も入居者が使いやすい環境にしている。洗濯物をたたむスペースも設けており、自発的に参加して頂いている。		